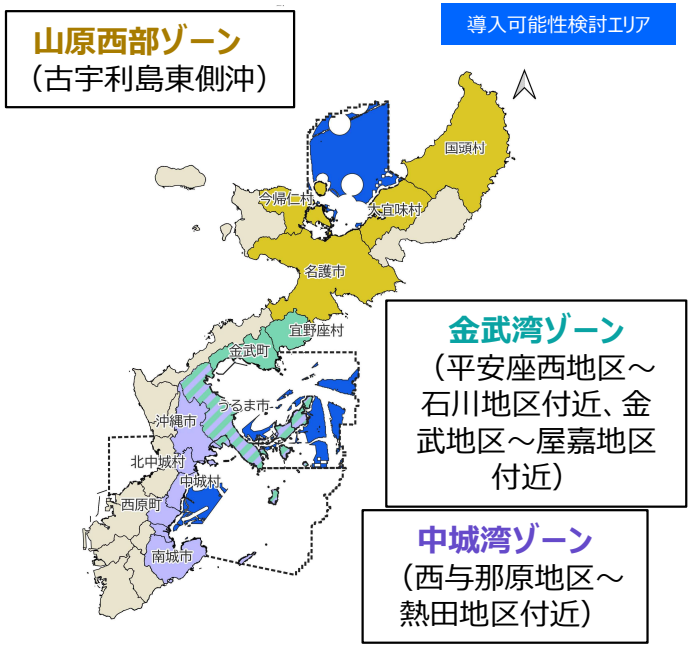
令和7年度島しょ型エネルギー社会基盤構築事業
（洋上風力発電導入可能性検討調査）業務委託
成 果 報 告 書【概要版】

はじめに

- 沖縄県は、令和3年3月に2050年度脱炭素社会の実現に向け、新たな県のエネルギー計画となる「沖縄県クリーンエネルギー・イニシアティブ」（以下「イニシアティブ」という。）を策定し、クリーンエネルギー導入拡大に向けた施策展開として、島しょ型エネルギー社会基盤構築事業に取り組んでいるところである。
- 本業務では、本イニシアティブで掲げる数値目標を達成するため、令和６年度までの調査により絞り込んだ洋上風力発電の調査海域（導入可能性検討エリア）に隣接する市町村や先行利用している地域関係者に対し、会合等を通じて同発電に関する理解促進等を図るとともに、地域課題や合意形成に必要な要件等を把握したうえで、同海域の中から有望なエリアを特定することを目的とする。

導入可能性ゾーン･エリア



ゾーニングのエリア区分

区分	内容
立地困難エリア	風況及び海上インフラ等の社会的状況等より、立地困難とされるエリア。
保全エリア	法令等により立地が困難または立地により周辺環境等に重大な影響が生じる可能性があり、保全すべきと判断されるエリア。
調整エリア	一律に保全すべきとまで言えないものの環境保全や生活環境等に支障を及ぼすおそれがないよう調整が必要なエリア。
Ⅰ	調整エリアのうち、現状操業・利用しているエリアや利用者が多いエリアであり、操業に著しい支障を及ぼす可能性が高いことが考えられることから、利害関係者との調整等の難易度が高いエリア。
Ⅱ	調整エリアのうち、本来の操業や利用を阻害する可能性があることから、利害関係者との調整等が求められるエリア。
Ⅲ	調整エリアのうち、自然環境・生活環境面から留意が必要なエリア。（Ⅰ、Ⅱを除く調整エリア）
白地エリア	保全エリア、調整エリアに該当しない、環境面、社会面からの制約が少ないエリア。

令和7年度調査

- ✓ 市町村・地域関係者向け会合
- ✓ 先行利用者との個別調整
- ✓ 先行事例調査

導入可能性検討エリア → 有望エリア

注意）令和6年度調査中に照会中であった防衛省への照会の結果（令和7年8月受領）、那覇広域都市ゾーンは当該区域の導入可能性検討エリアが狭小になったことから、事業性の観点から導入可能性が非常に低いとし、対象外とした。

1.市町村や地域関係者への理解促進等

①　市町村との意見交換（第1回）

● 「導入可能性検討エリア」周辺の市町村を対象に、過年度実施した調査結果の情報共有や洋上風力発電に関する理解促進を図るための意見交換を実施した。

◆開催概要

・①山原西部ゾーン

日時：令和７年8月21日（木）14時00分～15時00分

会場：沖縄県北部合同庁舎

参加者数：6名（4市町村）

・②中城湾・金武湾ゾーン（※同日開催）

日時：令和７年8月20日（水）①13時30分～15時00分②15時30分～16時30分

会場：沖縄県工業技術センター

参加者数：15名（9市町村）※WEB参加含む

◆プログラム

①会合について

②洋上風力発電に関する情報共有

③市町村会合の進め方について

④意見交換





1.市町村や地域関係者への理解促進等

① 市町村との意見交換（第1回）

◆主な意見

- ✓ 漁業関係者の定置網への影響や観光客のダイビングユーザー、景観等への影響が想定される。
- ✓ 環境保護団体が介入する可能性もあるため、地域住民全員が賛同している場合でないと行政として了承することは困難と思われる。
- ✓ 錨地では、台風時の避難場所として多くの船舶が停泊している。
- ✓ 地元への具体的な波及効果を示してもらいたい。
- ✓ 住民説明会を行う必要があるのではないか。
- ✓ 洋上風力発電について、自治体の広報誌で動きを周知してはどうか。

- ➢ **漁業や観光業、船社等の利害関係者への影響に対する懸念が示された。**
- ➢ **地域の合意に向けて地元住民に対する説明や導入時のメリットを提示する必要性について要望等があった。**

1.市町村や地域関係者への理解促進等

①　市町村との意見交換（第2回）

- 「導入可能性検討エリア」周辺の市町村を対象に、令和7年度に実施した調査結果の進捗報告を実施した。
- また、秋田県能代市による先行事例の紹介を行った。
- 有望エリア（案）における、今後、案件形成にむけて進めることへの課題や必要な情報等の協議を行った。

◆開催概要

日時：令和8年2月12日（木）14時00分～16時00分
会場：沖縄県体協スポーツ会館　会議室
参加者数：17名（10市町村）※WEB参加含む

◆プログラム

①講話（秋田県能代市）
②質疑応答
③令和7年度調査結果報告
④意見交換





1.市町村や地域関係者への理解促進等

① 市町村との意見交換（第2回）

◆主な意見

- ✓ 首長や所管課とも調整が必要である。そのため、案件形成にむけた対応の可否は現時点で回答することは難しい。
- ✓ 市町村職員の理解が進んでいないため、案件形成にむけた対応について回答できない。引き続き、メリットやデメリット等を踏まえて検討したい。
- ✓ 市町村にとってのメリットやデメリットが分からないため、首長や所管課も交えた勉強会のような形で共有の場を確保してもらいたい。
- ✓ 景観への懸念等を示す住民もいると思われるため、地域住民に対しても丁寧に説明してもらいたい。
- ✓ 実際に洋上風力発電事業を実施したことによる雇用創出の予測のような、経済波及効果について具体的に示してもらいたい。

- ➢ **案件形成に向けた対応の可否について判断すべく、市町村を対象とした勉強会の実施について要望等があった。**
- ➢ **第1回に続き、地域の合意に向けて地元住民に対する説明や導入時のメリットを提示する必要性について要望等があった。**

② 地域関係者との意見交換

- 「導入可能性検討エリア」を事業エリアとしている可能性がある事業者等※に、過年度実施した調査結果の情報共有や洋上風力発電に関する理解促進を図るための意見交換を実施した。

※ 洋上風力発電事業に関して関係性が高い業種で、国、地方公共団体、政令で登録・認証を受けた事業者の中から、洋上風力発電に伴う波及効果の影響が大きい法人格や系統上位組織を対象とした。

◆開催概要

①山原西部ゾーン

日時：令和７年10月21日（火）15:00～16:30
会場：沖縄県農業研究センター名護支所
参加者数：3団体※WEB参加含む

②金武湾ゾーン

日時：令和7年10月22日（水）10:30～12:00
会場：沖縄健康バイオテクノロジー研究開発センター
参加者数：2団体※WEB参加含む

③中城湾ゾーン

日時：令和7年10月22日（水）14:00～15:30
会場：沖縄健康バイオテクノロジー研究開発センター
参加者数：7団体※WEB参加含む

◆プログラム

①会合について
②洋上風力発電に関する情報共有
③アンケート結果と本会合の論点について
④意見交換



② 地域関係者との意見交換

◆主な意見

- ✓ 漁礁効果や、建設時及び運用時の魚への影響が気になる。
- ✓ 人体や魚などへの影響について懸念している。
- ✓ 本会合がどれだけ周知されていたのか疑問である。
- ✓ 台風が来た際、タンカー船などの避難する海域がある。この海域は除外してもらいたい。
- ✓ 期待しているメリットとして漁礁効果がある。一方、懸念事項で騒音・振動がある。
- ✓ 漁礁効果を得られるのであれば洋上風力発電に期待している。
- ✓ 洋上風力発電が建てられた場合、付近の航行について懸念している。

- ➢ **漁業関係者の中から洋上風力発電事業へ期待する意見が聞かれた。**
- ➢ **建設時や運用時の魚類や船舶の航行等への影響に対する懸念が示された。**

① 漁業関係者の意見把握に向けたヒアリング調査

● 「導入可能性検討エリア」において操業している漁協を対象に、より詳細な漁業実態の把握及び次年度以降の検討の継続について意向確認を行うためヒアリング調査を実施した。

ゾーン	ヒアリング対象漁協	実施日時	実施形式	ヒアリング事項
山原西部	A漁業協同組合	2026年1月15日（木） 10：00～11：00	対面	✓ 組合の概況 ✓ 過年度の操業実態ヒアリング調査結果についての追加・補足情報や修正事項 ✓ 操業エリアにおける漁獲量や漁労従業者の現状 ✓ 洋上風力発電の共生を図る上で調整余地のあるエリア ✓ 洋上風力発電事業を実施すると想定した場合の有望エリア ✓ 漁業協調への期待や懸念事項 ✓ 事業化に向けた具体的な検討に進む可否
	B漁業協同組合	2026年1月14日（水） 15：30～16：30	対面	
金武湾	C漁業協同組合	2026年1月14日（水） 10：30～11：30※合同	対面	
	D漁業協同組合	2026年1月14日（水） 10：30～11：30※合同	対面	
	E漁業協同組合	2025年12月24日（水） 10：30～11：30	対面	
	F漁業協同組合	2026年1月14日（水） 13：30～14：30	対面	
	G漁業協同組合	2025年12月24日（水） 9：15～10：15	対面	
中城湾	H漁業協同組合	2026年1月15日（木） 13：00～14：00	対面	
	I漁業協同組合	2025年12月24日（水） 14：00～14：40	対面	

2.利害関係者の更なる特定

② ヒアリング調査結果概要

- 山原西部ゾーンの一般海域と中城湾ゾーンの港湾区域は、関連漁協の各代表から前向きな意向が示されている。

ゾーン	ヒアリング対象漁協	有望エリアとしての調整の余地	有望エリアにおける事業実施の意向確認
山原西部	A漁業協同組合	砂採取、マグロ養殖、浅瀬の地域は避けるべきであるが、その他の地域は**調整の余地がある**と考えられる。	**事業化に向けた具体的な検討に進むことは可能**と考え、国への情報提供可能と考える。
	B漁業協同組合	延縄漁業を操業しているエリアがあるが、それ以外のエリアは**調整の余地がある**と考えられる。	**事業化に向けた具体的な検討に進むことは可能**と考え、国への情報提供可能と考える。
金武湾	C漁業協同組合	付近の浅瀬は良い漁場となっているため、**調整が難しい**と考えられる。	総会での情報共有のもと組合員の合意を得たうえで判断が必要であり、国への情報提供に向けては現状**どちらともいえない**。
	D漁業協同組合		
	E漁業協同組合	導入可能性検討エリア付近は刺網、潜り漁業の漁場だが、操業者数が少なく**調整の余地がある**。	組合員の合意をとる必要はあるが、**事業化に向けた具体的な検討に進むことは可能**と考える。
	F漁業協同組合	航路以外は**調整の余地がある**。	洋上風力発電事業のメリットについて理解が不足している。また、総会などで組合員の合意を得る必要があり、現状**どちらともいえない**。
	G漁業協同組合	導入可能性検討エリアの一部は、影響は小さいと考えられるため**調整の余地がある**。	漁業協調策による将来的なメリットも多くあると考えており、**事業化に向けた具体的な検討に進むことは可能**と考える。
中城湾	H漁業協同組合	**調整の余地はある**が、付近で事業者と現在漁業権調整中であり、別途調整が必要。	**事業化に向けた具体的な検討に進むことは可能**と考える。
	I漁業協同組合	導入可能性検討エリア付近は延縄漁業や刺網漁業の漁場だが、操業海域を**調整できる余地がある**。	組合員の合意を得る必要はあるが、湾内で漁業ができる基盤を確保したく、**事業化に向けた具体的な検討に進むことは可能**と考える。

3. 有望エリア（案）について

① 有望エリア（案）の抽出に向けた絞り込み

- 有望エリア（案）の選定に向けて、先行利用者（漁協）の洋上風力発電事業化に向けた具体的な検討に進むことは可能の意向が確認でき、事業性が一定程度見込みやすい、一般海域となる山原西部ゾーンと港湾区域となる中城湾ゾーンに絞り込んだ。

			山原西部	金武湾		中城湾
			一般海域	港湾区域	一般海域	港湾区域
先行利用者（漁協）の意向			**事業推進可能** 関係各漁協前向き	事業推進保留 一部関係漁協保留	事業推進保留 一部関係漁協保留	**事業推進可能** 関係各漁協前向き
事業実現性に係る評価	主な利害関係者の状況※1	船舶運航	**利用が少ない・基幹航路周辺無し**	利用が活発・基幹航路近接 専用埠頭保有者の港内航路多	基幹航路に近接	利用が活発・基幹航路近接 専用埠頭保有者の港内航路多
		自衛隊・米軍	影響箇所が近接 東側に一部影響箇所あり	**影響箇所は周辺無し**	**影響箇所は周辺無し**	影響箇所が近接 東側に影響箇所あり
		海砂利採取	採取箇所が近接	採取箇所が近接	**採取箇所は周辺無し**	**採取箇所は周辺無し**
	経済面	導入可能性エリアにおけるポテンシャル	**先行事例規模程度**※2 384MW（6MW64基）	**先行事例規模以上**※2 480MW（6MW80基）	**先行事例規模以上**※2 342MW（6MW57基）	**先行事例規模以上**※2 324MW（6MW54基）
		風況※1	強くはない 7.0～7.5 m/sが大半	強くはない 7.0～7.5 m/sが大半	**強い** 7.5～8.0m/sを含む	強くはない 7.0～7.5 m/sが大半
		沿岸までの距離※1	**近距離** 5km未満	**近距離** 5km未満	**近距離** 5km未満	**近距離** 5km未満が大半
	施工面	水深※1	**浅い・着床可能** 30m未満が大半	**浅い・着床可能** 30m未満が大半	一部深い・一部浮体 30mから200m	**浅い・着床可能** 30m未満が大半
		波高※1	**低い** 1m未満が大半	**低い** 1m未満が大半	やや高い 1.4m以上の箇所あり	**低い** 1m未満が大半
		海底の傾斜※1	**平坦** 平均傾斜各1°未満	**平坦** 平均傾斜各1°未満	一部傾斜 1°以上3°未満あり	**平坦** 平均傾斜各1°未満
			高評価数6	高評価数6	高評価数5	高評価数6
総合評価			事業推進可能＋高評価数6	事業推進保留＋高評価数6	事業推進保留＋高評価数5	事業推進可能＋高評価数6

※1：過年度調査結果より引用　※2：一般海域における事業者選定済の着床式洋上風力出力は315～684MW、港湾区域における運転中・工事中の洋上風力出力は12～220MW（2026.2時点）

② 有望エリア（案）の設定条件等

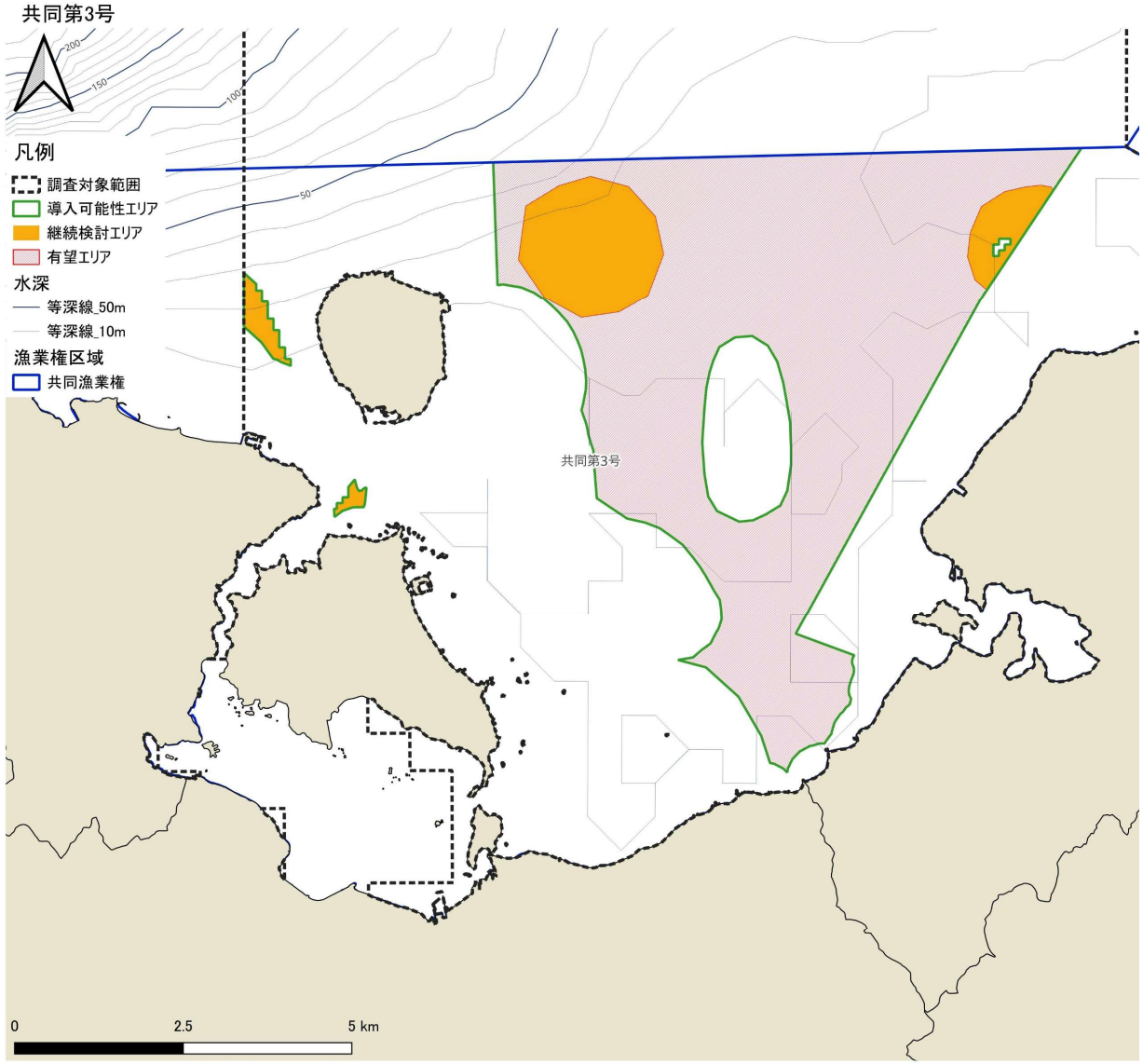
- 過年度のゾーニング調査結果及び本年度のヒアリング詳細調査結果を基に、以下の条件のもと、有望エリア（案）を抽出した。

エリア区分		設定条件	今後の方針
導入可能性エリア	有望エリア（案）	• 過年度調査において洋上風力発電設備の導入に際しての難易度の低いエリアとして、利害関係者が絞られる漁業権区域における**調整エリアⅡ・Ⅲ、白地エリア**に位置づけたエリア。（導入可能性エリア） • 本年度における漁業協同組合へのヒアリング結果に基づき、**事業化に向けた具体的な検討に進むことは可能**と回答が得られた漁業権区域のうち、**事業実施に向けて調整の余地がある**と回答が得られたエリア。	洋上風力発電事業実施を見据えて、国への情報提供または港湾占有許可に向けた協議・調整を進める。
	継続検討エリア	• 導入可能性エリアのうち、過年度ヒアリング調査結果において航路や錨泊地等の**先行利用者の操業・利用区域**として把握しているエリア。 • 本年度における漁業協同組合へのヒアリング結果に基づき、事業化に向けた具体的な検討に進むことは可能と回答が得られた漁業権区域のうち、**引き続き調整の必要性がある**と回答が得られたエリア。	関係者と調整を行うことで導入可能性があるため、有望エリアの抽出に向けて、今後も各主体と調整を図り検討を進める。

3. 有望エリア（案）について

③ 有望エリア（案）＜山原西部ゾーン＞

- 導入可能性エリアにおける導入可能容量は384MW（64基）であり、そのうち有望エリア（案）における導入可能容量は342MW（57基）となる。
- 当該エリアは一般海域になるため**再エネ海域利用法に基づく占有者公募を行う必要**がある。
- エリア外に構成組合員であるマグロ養殖等を営んでいる法人の**操業範囲に近接しているため、十分に配慮することが必要**。（R7年度利害関係者ヒアリングより）
- エリア内で、**利用している停泊地や海砂利採取区域等の調整に向けて継続検討が必要**。（R6年度利害関係者ヒアリングより）
- **自衛隊・在日米軍の運用に影響が生じる箇所**は回避しているものの**近接している個所があるため、十分に配慮することが必要**。（R6年度利害関係者ヒアリングより）
- **クジラやジュゴン、ウミガメ等の生息・目撃箇所に近接する**ため、事業実施に際しては影響の程度を把握することが必要。（R6年度有識者ヒアリングより）

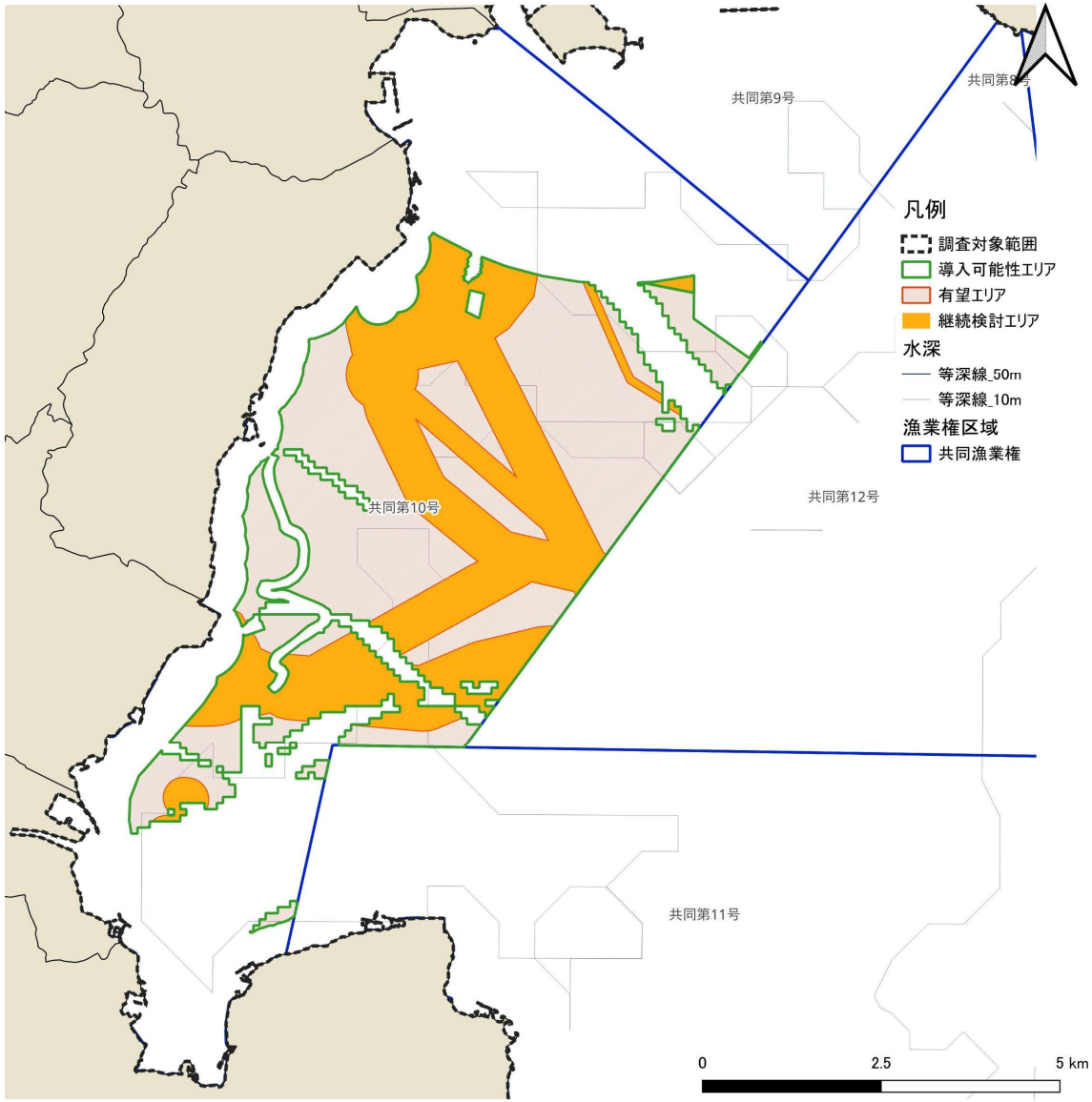


留意点：本調査結果は現時点で入手可能な情報を活用しているが、個々の情報の精度に相違があり、エリアの境界位置や操業範囲が実際の現地と一致していない可能性がある。また、本ゾーニング結果が、洋上風力発電事業の実施を担保するものではない。

3. 有望エリア（案）について

③ 有望エリア（案）＜中城湾ゾーン＞

- 導入可能性エリアにおける導入可能容量は324MW（54基）であり、そのうち有望エリア（案）における導入可能容量は168MW（28基）となる。
- 当該エリアは港湾区域になるため**港湾法に基づく占有者公募を行う必要**がある。
- **原油輸送管は現在使用されていない可能性があり、事業者への確認が必要**。（R7年度利害関係者ヒアリングより）
- 新たに**沿岸域立地企業による漁業権調整を実施しているエリアがあるため、事業者への確認が必要**（R7年度利害関係者ヒアリングより）
- 専用ふ頭をもつ企業が多く立地しており、**利用している航路や停泊地、保有している海底輸送管等の調整に向けて継続検討が必要**。（R6年度利害関係者ヒアリングより）
- **自衛隊・在日米軍の運用に影響が生じる箇所**は回避しているものの**近接しているため、十分に配慮することが必要**。（R6年度利害関係者ヒアリングより）



留意点：本調査結果は現時点で入手可能な情報を活用しているが、個々の情報の精度に相違があり、エリアの境界位置や操業範囲が実際の現地と一致していない可能性がある。また、本ゾーニング結果が、洋上風力発電事業の実施を担保するものではない。

4. 今後の方向性

- 「有望エリア（案）」に基づき、各関係主体との協議・調整や合意形成を行い、「有望エリア」とする必要がある。
- 「継続検討エリア」は、当該海域の関係主体と継続検討を進め、来年度以降の「有望エリア」への追加に向けて協議・調整を行う必要がある。
- 「有望エリア」は、洋上風力事業の案件形成に向けて、各制度やスキームに応じて手続き等を進めていく必要がある。

